

胃がんABC検診

ABC検診とは、2種類の血液検査によって「胃の健康度（胃がん発症リスク）」を調べる検査です。

ヘリコバクターピロリIgG抗体でピロリ菌感染の有無を、ペプシノゲンで胃粘膜萎縮度を調べ、その結果を組み合わせて胃がんのリスクを4群（ABCD）分類で評価する検診です。

胃がんリスクに応じて内視鏡による精密検査を行うなど、効果的な胃がん検診として期待されています。

*** ABC検診は、がんそのものを見つける検査ではありません。**

血液検査

ペプシノゲン検査

ペプシノゲンという物質の血中濃度を測定することで、胃粘膜の萎縮具合を調べる検査です。萎縮が進んだ胃は、胃がんになりやすいと考えられています。

ヘリコバクターピロリ抗体検査

胃粘膜にいる細菌で、慢性的な胃粘膜の炎症を引き起こし、胃・十二指腸潰瘍・萎縮性胃炎の原因菌と考えられています。

【タイプ早見表】

	ピロリ菌抗体 (-)	ピロリ菌抗体 (+)
ペプシノゲン検査 (-)	A タイプ	B タイプ
ペプシノゲン検査	D タイプ	C タイプ

A タイプ

健康的な胃粘膜です。
胃がんを発症するリスクは低いと思われます。

B タイプ

胃がんを発症するリスクが軽度に見られます。
3年に1度の内視鏡検査とその間にバリウム検査を実施することをお勧めします。

D タイプ

胃がん発症するリスクが高度に見られます。
必ず内視鏡検査を受けましょう。また、異常がなくても毎年、定期的な内視鏡検査をお勧めします。

C タイプ

胃がん発症するリスクが見られます。
1年～2年毎に内視鏡検査を受診して下さい。
また、その間にバリウム検査を実施することをお勧めします。

胃がんABC検診

4,860円 (税込)